単元（題材）及び授業構想のポイント

資質・能力を育むための「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

各教科等において目指す資質・能力を育むためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ることが大切です。特に、「深い学び」の鍵となるのが「見方・考え方」であり、児童生徒が「見方・考え方」を働かせて「深い学び」を実現しているかどうかについて、児童生徒を主語とした授業改善の視点をもつことが大切です。

資質・能力の三つの柱　※三つの柱のバランスのとれた育成を目指す。

学びに向かう力、人間性等

知識及び技能　　思考力、判断力、表現力等

単元（題材）の目標　　１単位時間のねらい

支え合う

児童生徒が…

見方・考え方　「深い学び」の鍵

各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方

→教師が「見方・考え方」を明確にするとともに、児童生徒が「見方・考え方」を働かせて学ぶような授業デザインを考えることが大切です。

見方・考え方を働かせる

習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが重要です。

【授業改善の視点】

○学ぶことに興味や関心をもつ
○自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる

主体的な学び

○自分の考えをもった上で話し合う
○他者との協働や対話、先哲の考えに触れることにより、自己の考えを広げ深める

対話的な学び

○知識を相互に関連付けてより深く理解する
○情報を精査して考えを形成する
○問題を見いだして解決策を考える
○思いや考えを基に創造することに向かっている

深い学び

［留意事項］・児童生徒の姿から三つの学びの実現状況を把握し、一体として改善・充実が図られるようにする。
・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。

授業改善と評価

・指導と評価の一体化を図るためには、教師が自らの指導のねらいに応じて授業での児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かすことが大切です。
・児童生徒が「見方・考え方」を働かせているかどうか自体は評価の対象とするものではありません。しかし、授業の中での児童生徒の学びを振り返り、授業改善を行う中で、児童生徒が「見方・考え方」を働かせることができていたかを確認し、更なる指導の改善等につなげることは重要です。

資質・能力を育成する ～「見方・考え方」を働かせることを通して～

資質・能力を育むための「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるに当たり、特に「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」である。

「見方・考え方」は、新しい知識及び技能を既にもっている知識及び技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力、判断力、表現力等を豊かなものとしたり、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりするために重要なものであり、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが求められる。

この、「見方・考え方」とは何なのか、「見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する授業の実現に向けてどのようなことに配慮すればよいのだろうか。

Ⅰ　「見方・考え方」とは何か

（1）「見方・考え方」の定義

学習指導要領総則において、「各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方」と定義されている。言い換えれば、各教科等にはそれぞれ学習対象があるが、その学習対象にどのようにアプローチしてどのような視点や考え方で捉えるのかという教科等の本質に迫るための視点や考え方が、「見方・考え方」である。

従来から数学や理科などの一部の教科においては類似の概念が用いられてきたが、今回の学習指導要領では、そうした従来の整理とは別に、全ての教科について、再整理している。

（2）「深い学び」と「見方・考え方」

今回の改訂における審議では、「主体的・対話的で深い学び」を実現する上で、各教科等の資質・能力の育成の観点からは「深い学び」の視点は極めて重要であるとされていた。「深まり」を欠くと表面的な活動に陥ってしまうという指摘もあったからである。

また、「主体的な学び」や「対話的な学び」はその趣旨が教科共通で理解できる視点であるのに対し、「深い学び」の在り方は各教科等の特質に応じて示される必要があるとされ、各教科等の学びの「深まり」の鍵となるのが「見方・考え方」であるという見解が示された。

（3）「見方・考え方」と資質・能力の三つの柱の関係

学習指導要領において「見方・考え方」は、育成を目指す資質・能力の三つの柱とは別の概念として整理されている。

「見方・考え方」は「深い学び」の鍵になるものとされているが、これは「見方・考え方」を働かせることによって資質・能力が育まれるということである。すなわち、各教科等の学びを通じて子どもたちが資質・能力を獲得する過程で、子どもたちが「働かせる」ものである。

また、「見方・考え方」を働かせることで資質・能力が更に育まれたり、新たな資質・能力が育まれたりする。またそれによって「見方・考え方」が更に豊かになる。というように、「見方・考え方」と資質・能力は相互に支え合う関係にあるとされている。

（4）「見方・考え方」と当該教科等を学ぶ意義

今回の改訂においては、なぜそれを学ぶのか、それを通じてどのような力が身に付くのかという、教科等を学ぶ本質的な意義を明確にする議論が展開され、各教科等において育成を目指す資質・能力が三つの柱に基づき整理されるとともに、「見方・考え方」も教科等ごとに整理された。「見方・考え方」は、「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすもの」とされ、その教科等の本質、その教科等を学ぶ意義とも重なると言える。

さらに、「見方・考え方」は「教科等の教育と社会をつなぐ」、言い換えれば、子どもたちが大人になって生活していく際にも重要な働きをするものでもある。

Ⅱ　「見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する授業を実現する上で配慮すべき事項

（1）学習指導要領の各教科等の目標と「見方・考え方」

まず、学習指導要領の教科等の目標に**『見方・考え方』を働かせ」ることが含まれている（※1）**ことを確認する必要がある。

そして、各教科等の学習指導要領の「第３　指導計画の作成と内容の取扱い　１（１）」において、**「見方・考え方」を働かせる授業を実現するための学習活動の工夫について記載されている（※2）。**

「子どもたちが学習や人生において『見方・考え方』を自在に働かせられるようにすることにこそ、教員の専門性が発揮されることが求められる」とされ、「深い学び」の視点から授業改善をし、子どもたちの「見方・考え方」を働かせる授業に迫ることが、教師に期待されている。

（2）授業デザインと「見方・考え方」

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進める際には、子どもたちが「見方・考え方」を働かせて学ぶような授業デザインを考えることが重要である。

各教科等の特質に応じて、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して、授業改善の在り方を検討することが求められている。

なお、**各教科等の解説において示している各教科等の特質に応じた「見方・考え方」は、当該教科等における主要な「見方・考え方」を例示したもの（※3）**であり、実際の授業で子どもたちが働かせる「見方・考え方」については、その例示を踏まえながら、学習内容等に応じて柔軟に考えることが重要である。

（3）学習評価と「見方・考え方」

観点別学習状況の評価の対象はあくまでも各教科等で育成を目指す資質・能力をどの程度身に付けているかどうかであり、「見方・考え方」を働かせているかどうか自体を評価の対象とするものではない。

しかし、教師が自らの指導のねらいに応じて授業の中での子どもの学びを振り返り、授業改善を行う中で、子どもたちが「見方・考え方」を働かせることができていたかを確認し、教師の更なる指導の改善等につなげることは重要である。

※1、※2、※3……資料２参照（各教科のみ作成）

【参考】
小学校学習指導要領（平成二十九年告示）解説　総則編
初等教育資料２０１７年１１月号
初等教育資料２０１９年９月号

社　会　社会的な見方・考え方を働かせることができる単元の構成と資料・発問の工夫

資質・能力の育成を図るためには、児童生徒が社会的な見方・考え方を働かせながら学ぶことが大切です。そのために、単元全体を見通して、視点（見方）や方法（考え方）に基づいた学習課題や発問等を、活用する資料とともに工夫していきます。

POINT　単元の構成について

学習指導要領や解説を基に、**単元の目標と評価規準を設定**します。また、**毎時間の学習課題の解決が、単元の学習課題の解決につながるように**単元を組み立てます。

［指導事例］小学校第３学年
単元：市の様子の移り変わり

学習課題【全10時間の内の一部】

※資料提示と発問を工夫し、**児童の疑問を生かして設定**します。

２　私たちの市は、どのように変わってきたか。

＜単元の学習課題＞　私たちの市や暮らしの様子は、どのように移り変わってきたのだろう。

３　市の交通の様子は、どのように変わってきたか。
※４時間目～７時間目は、土地利用、人口、公共施設、生活の道具について同様に調べる。

８　＜単元のまとめ＞（めあて）
市の移り変わりを表にまとめよう。　（～第９時）

この単元では、**移り変わり**を調べるために、**三つ以上の時期を取り上げます**。現在と、時代の分岐点を選びます。

［単元で使用する資料の例］

【60年前の地図】　【現在の地図】

・40年前の地図も準備します。
・調べたことをまとめた表を活用します。

○○市の移り変わり

	60年前	40年前	現　在
地域の様子	山や田、畑が多い。	新しい店ができた。	家が増えた。
交　通	電車が走っている。	道路が広くなった。	高速道路ができた。
土地利用	田や畑が多い。	家や店が増えた。	大きな工場ができた。

POINT　資料について

単元及び本時の学習課題を基に、必要な資料を考えます。児童生徒に**読み取らせる情報や複数の資料を関連付けて考察させる内容等を吟味**した上で、**資料を精選**します。

POINT　発問について

単元の目標を達成するために、**社会的な見方・考え方を働かせることができるように発問**します。特に、資料から読み取った事実を基に、**社会的事象の特色（傾向やよさ）や意味（働きや役割）等を考えさせる発問をしっかり準備**しましょう。

［展開例］教師（T）からの見方・考え方を働かせる発問と、児童（S）の姿

［第５時：資料を読み取り、事実をつかむ］
T：それぞれの時期では、どこにどんな土地が広がり、どんな建物が見られますか。
S1：60年前は市のほとんどが田や畑です。
S2：家や店は、南側の駅のそばに多いです。
S1：他の時期と比べると、森林も多いです。
T：S1さんのように、他の時期と比べてみましょう。どのような変化がありますか。
S3：40年前は60年前と比べて、海のそばに家や店が増え、工場も多くなりました。
S4：新しい鉄道も増えています。
S2：現在は大きな工場が作られました。
S3：60年前と比べると、家や店もたくさん増えました。公園は同じ場所にあります。

［第９時：事実を基に、特色等を考える］
T：家や店が増えたのはなぜでしょう。
S4：新しく鉄道ができて、引っ越してきた人が増えたからだと思います。
S2：大きな工場ができたのも理由だと思います。
S1：そうか、鉄道や工場ができたから人が増えて、新しい家が建てられたんだ！
S3：田や畑が減ったのも……（以下省略）
T：では、調べたことをまとめると、私たちの市は、時間が経つに連れてどのように変わったと言えますか。